

2015年度学生研究発表大会総括

教員世話役 経済学部教授 望月和彦

2005年度から再開された学生研究発表大会は年々規模が大きくなり、2013年度から予選と本選の二段階審査方式をとるようになった。

今年度の学生研究発表大会予選への参加は経済学部、社会学部、経営学部の3学部の11のゼミから27の個人・グループとなり、前年度比で4割減となった。

参加人数は128名となっており、昨年度の209名から4割減少した。前年度比で減少した一つの要因として、学生懸賞論文の締め切りが予選の前に設定されたことがあるのかもしれない。懸賞論文と研究発表大会のスケジュールの調整が必要であると思われる。

それでも参加人数だけを見れば学生懸賞論文よりも規模がはるかに大きくなっている。もちろんこれは学生研究発表大会が基本的にグループ参加となっているためであり、この両者を単純比較することはできない。しかし自主的な取り組みによる学内のイベントとしてはかなり大規模なものに成長したと言える。

予選は12月2日（水）午後1時から3時過ぎまでの間でヨハネ館の3つの会場に分かれて行われ、審査の結果、各会場から2つずつ計6つの報告が本選に進み、その他に準佳作として各会場で2つずつ計6つの報告が選ばれた。本選に進んだ報告の内訳は、経済学部から5報告、経営学部から1報告である。

予選では、経済学部、社会学部、経営学部、国際教養学部の教員計15名がコメンテーター・審査員・会場責任者としてご協力を頂いた。このイベントは若手教員の協力によって成り立っている。若手教員の学生に対する指導力は非常に高く、それが学生研究発表大会にも現れている。

本選は2016年1月6日（水）午後1時から午後3時までハイビジョンシアターで行われた。

本選では予選で選ばれた6つの個人・チームが報告を行い、それぞれの報告に対して専任教員のコメンテーターから熱のこもったコメントを頂いた。また学生論集刊行委員会から委員長が審査員として参加して頂いたほか、今年度の試みとして教育後援会の竹井源五会長に審査員をお願いした。審査は以上2名に加えて世話役の望月の3人で行った。

本選の見学者だけでも100名近く、それに報告者を合わせると100名をはるかに超えたと思われる。

審査の結果、優秀賞1組、佳作5組が選ばれた。このような審査結果になったのは、報告の水準が全体的に上がり、差があまりなくなったためである。これもまた指導教員の努力のたまものといえる。

また予選・本選ともほぼ予定通りに進行が行われ、時間管理もきちんとしてきていたと思われる。昨年度の本選では15分の報告時間が余り気味であったので今年度の本選は予選と同じく報告時間を10分とした。

従来からも度々ご指摘を受けているとおり、折角このようなイベントをしているのだから、これを大学広報に利用すればどうかという意見は根強くあり、当方としてもこのイベントを外部に公開できるように改善を積み重ねてきたところである。竹井会長からはこのようなイベントは是非保護者にも開放して欲しいということであった。公開の仕方については来年度の課題としたい。

昨年度は本選のビデオの一部を大学のホームページに掲載した。今年度もビデオを公開する予定である。

さらに、折角学生諸君ががんばっている記録があるわけなので、このビデオを学生の出身高校に渡すことができないか検討をお願いしようと思っている。

このイベントは教員個人がマネジメントできる規模を超えており、数年前から学長および学生論集刊行委員会に対して組織的な協力を要請してきた

が、本年度より教育支援課の協力を頂けることとなった。関係者のご理解とご協力に感謝する次第である。本年度はとりあえずどのようなイベントであるかを理解して頂くことに重点を置き、運営そのものについては従来通りのやり方を取った。来年度以降の持ち方については引き続き教育支援課と話し合って進めていきたいと考える。

最後にこの学生研究発表大会にご協力頂いたすべての学生・教職員のみなさまに御礼申し上げます。

以上